

(お知らせ)

## 柏崎刈羽原子力発電所7号機の使用済ハフニウムフラットチューブ型制御棒の外観点検状況について

平成23年11月8日  
東京電力株式会社  
柏崎刈羽原子力発電所

当所7号機において、昨年使用済燃料プールに保管している使用済ハフニウムフラットチューブ型制御棒<sup>\*1</sup>の外観点検を実施したところ、全46本中28本の制御棒においてタイロッド<sup>\*2</sup>部にひびを確認いたしました。

これらのひびの数や長さ等を厳しく評価しても、いずれも制御棒の構造健全性および制御棒挿入機能は確保され、安全上の問題はありませんでした。

また、7号機では本年8月23日に定期検査を開始するまでの間、原子炉内で使用していた同型制御棒全25本のうち、すでに全挿入されていた2本を除く23本について、月に1回の頻度で動作確認を実施し安全上の問題がないことを確認するとともに、次回定期検査において同型制御棒25本の取り替えと外観点検を実施することとしておりました。  
(平成23年1月7日までにお知らせ済み)

その後、定期検査において7号機の原子炉内で使用していた同型制御棒25本を、使用済燃料プールへ取り出し、本年11月7日より外観点検を開始いたしました。

本日までに25本中2本の同型制御棒の点検を終えておりますが、現時点においてタイロッド部にひびは確認されておられません。

なお、点検を終えた2本の制御棒のハンドルとシース<sup>\*3</sup>の溶接部やハンドルのガイドローラ部でひびが確認されておりますが、これらのひびは従来から制御棒の使用に伴って発生することが知られており、制御棒の健全性に影響を与えるものではありません(従来<sup>\*4</sup>の知見)。

当社は、引き続き、残りの同型制御棒23本の外観点検を約2週間の期間で実施し、調査結果について取りまとめてお知らせしてまいります。

なお、外観点検の結果、タイロッド部におけるひびを発見した場合等は、個別にお知らせしてまいります。

以上

添付資料：7号機使用済ハフニウムフラットチューブ型制御棒の外観点検状況

**\* 1 ハフニウムフラットチューブ型制御棒**

高い中性子吸収能力を有するハフニウムを、平たい筒状に成形して中性子吸収材として使用した制御棒。

**\* 2 タイロッド**

制御棒の構造部材の一つで、ハフニウムを包んでいる金属板（シース）やハンドルを接続しているもの。

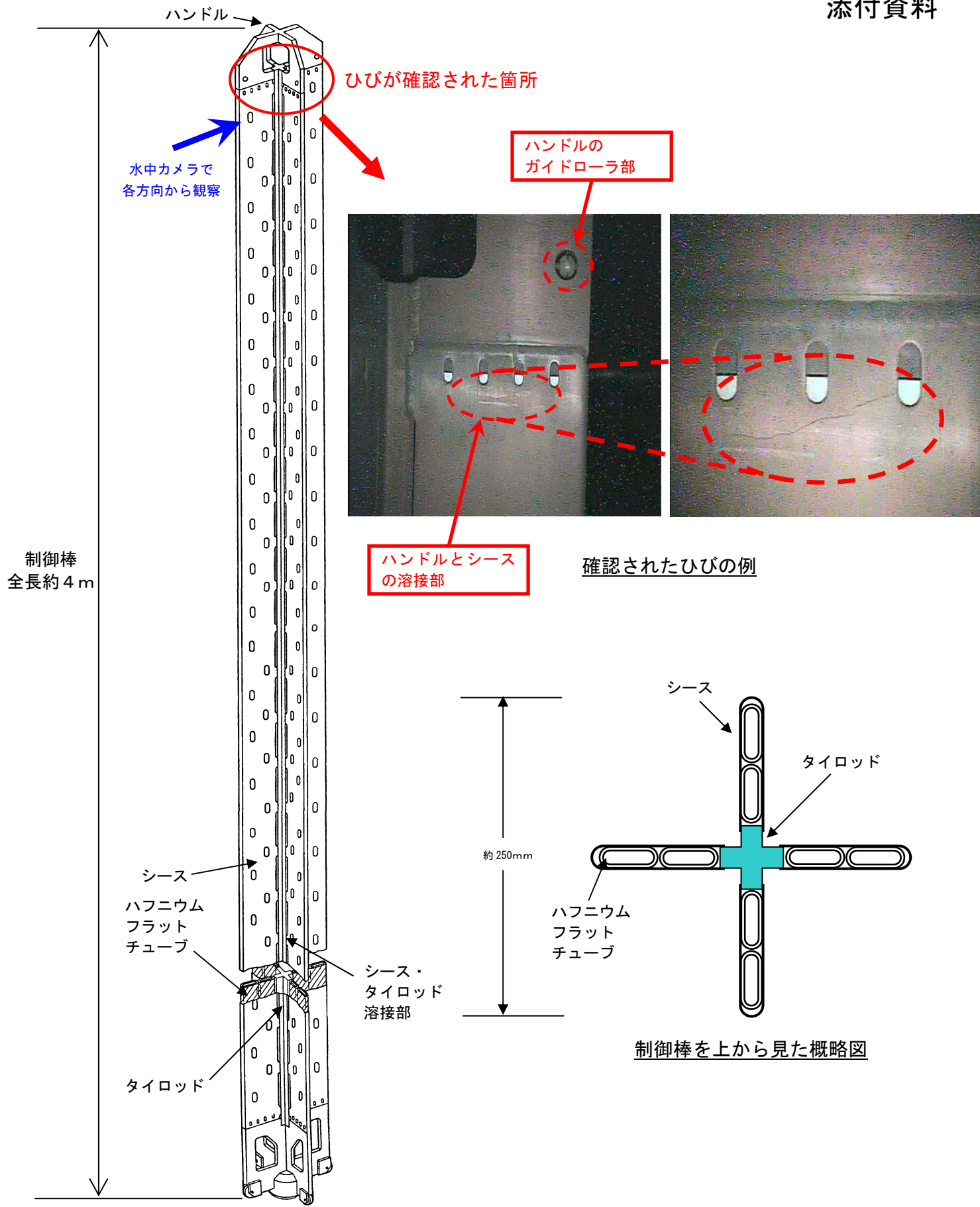
**\* 3 シース**

制御棒の構造部材の一つで、ハフニウムを包んでいるステンレスの金属板。

**\* 4 従来知見**

ハンドルとシースの溶接部やハンドルのガイドローラ部のひびについては、制御棒を経年的に使用することに伴い発生することが広く知られている。

当社の原子力発電所も含めて過去に多くの確認例があるが、いずれも制御棒の健全性に影響を与えるものではないものと評価されている。



7号機 使用済ハフニウムフラットチューブ型制御棒の外観点検状況